

911.3

バ

下

道
徳
子
集
卷
下



52

香

榮花もよく開くを花奴ト 諸九
之也時て雀トのト 嵐雪
之也家トのトの太刀トは人ト 去来

之也トの偶トの雪トれトの 良品

之也トの雪トかふトのトの 也者

之也トの雪トもトのトの 大冠

智

之也トの五尺の菴トの初ト 闌更

聖

初トの也トの梅トの生トの秋ト 如泉

鵲

初トの也トの何トのトの 看ト 風麦

鴉

初トの也トの何トのトの 馬明

鴉

初トの也トの何トのトの 二柳

鴉

初トの也トの何トのトの 半自

鴉

初トの也トの何トのトの 倉庫

鴉

初トの也トの何トのトの 其前

鴉

初トの也トの何トのトの 李吟

鴉

初トの也トの何トのトの 濁子

鴉

初トの也トの何トのトの 千代

鴉

初トの也トの何トのトの 乙由

鴉

初トの也トの何トのトの 二柳

松飾 毛圍もゝいはなはにはにに松まつはり 昔本

齒栗 三日月さんげつは法はふしととををぬぬ齒栗はなの間 可俊

蓬菜 芝草しばくさをを更さらととひひくくららててたたふふ山やま店たな

獨舟 かんかんははおおややままれれ二にふふかか福ふく茶ちや十じゆ 乙由

楪 柳やなぎ茶ちや州しゆたたふふとと根ねをを一ひと卦くわ 琴風

書初 由ゆははりりとと強つよ張はりふふままむむりりまま 似船

初展 ちち初はつやや酒しゆ持もちれれ危あやのの十じゆ文字ぶつじ 傍門

正月 出で初はつやや祝いわひひ一ひとととくくれれははれれ 二柳

初展 初はつははりりとと此こゝ奇きししののとと初はつ番ばん 青羅

正月 正月げつげつややかかねねししのの解とけけててううららくくおお 万子

正月 正月げつげつやや先まづづ後ご有ありり二に日にちののそそくく 由平

正月 小酒こしゆ者ものううららとと正月げつげつとと 角上

正月 正月げつげつややああららととおお車くるま小こ家や 二柳

子日 ひとりひとりおおももたたららるる者ものとと人ひとおお祭まつり 去来

子日 子こ月げつせんぜん船ふねるる園のののままりりののけけ 青菴

子日 小こ松まつととててひひままつつのの小こ松まつ 儿董

子日 八はちととてて色いろ七しちととみみたたくく音ね 路通

子日 七しちととややめめのの七しち母ははのの松まつももとと 其角

子日 七しち柳やなぎやや己おのれのの大おほ拍はつ子こ 舒紅

子日 七しちととののはは木きかかううのの島しまににれれ 越人

子日 七しち草くさややああららとと七しち日にちとと 諷竹

子日 一ひととと色いろ一ひととと色いろははりりとと茶ちやをを 芭蕉

子日 萩はぎの中なかれれ茶ちやははりりととああととぬぬままりり げん

子日 かかままままららととととははりりととははりりとと茶ちやをを 英之

子日 一ひととと色いろははりりとと色いろははりりとと色いろははりりとと茶ちやをを 蝶友

子日 雲うれれとと色いろははりりとと色いろははりりとと色いろははりりとと茶ちやをを 二柳

子日 けけのの中なかれれ茶ちやははりりととああととぬぬままりり 支考

子日 一ひととと色いろははりりとと色いろははりりとと色いろははりりとと茶ちやをを 支考

子日 けけのの中なかれれ茶ちやははりりととああととぬぬままりり 支考

子日 一ひととと色いろははりりとと色いろははりりとと色いろははりりとと茶ちやをを 支考

子日 けけのの中なかれれ茶ちやははりりととああととぬぬままりり 支考

子日 一ひととと色いろははりりとと色いろははりりとと色いろははりりとと茶ちやをを 支考

御味のほくやうまきひら

柳

一穂の牡丹はさくらにまゝれうか 尾頭

船やうらな石ふはごれらるる正秀

えつしは通ふまゝふかれ 幾重

さらば梅人たのめ川を川 曉臺

村のやふまゝく新雪わかつと 希因

万葉やふも佩のし歌の事 梅盛

万葉やふ代の古たうひふれ 馳道

万葉やのらうい巻かやうし記 千代

猿来よつとてまやとらふし 巴稚

たともやうこれ相成り抗 旭芳

こゝは法也一果方らうる井はる 菊乙

つとむや弟おのれ氣成りけし 友静

あふの二人よ事てまゝら記 宗文

梅

柳

あふの二人よ事てまゝら記 宗文

梅はさか田の宮の日の月 園女
 灰柱を白梅の心垣に花 九兆
 梅はむらのもねくおひやれ 惟然
 子おし向人よおひや花 千代
 歌ふさささ女西の梅は 希因
 梅の心垣をむらした梅が 青蘿
 月の梅はさか田の宮の日の月 二柳
 梅はさか田の宮の日の月 風律
 本意はさか田の宮の日の月 蓼太
 灯はさか田の宮の日の月 蕪村
 梅はさか田の宮の日の月 千代
 さか田の宮の日の月 八重
 梅はさか田の宮の日の月 諸九
 梅はさか田の宮の日の月 木采

柳

梅はさか田の宮の日の月 柳はさか田の宮の日の月 巢
 一風はさか田の宮の日の月 柳はさか田の宮の日の月 由平
 水音の柳はさか田の宮の日の月 酒堂
 雪のさか田の宮の日の月 柳はさか田の宮の日の月 支考
 我はさか田の宮の日の月 柳はさか田の宮の日の月 如元
 川はさか田の宮の日の月 柳はさか田の宮の日の月 岱水
 照のさか田の宮の日の月 柳はさか田の宮の日の月 支考
 くはさか田の宮の日の月 柳はさか田の宮の日の月 等盛
 五六はさか田の宮の日の月 柳はさか田の宮の日の月 去来
 梅はさか田の宮の日の月 柳はさか田の宮の日の月 巴弓
 梅はさか田の宮の日の月 柳はさか田の宮の日の月 蕪村
 のらさか田の宮の日の月 柳はさか田の宮の日の月 曉堂
 道のさか田の宮の日の月 柳はさか田の宮の日の月 蘭更
 梅はさか田の宮の日の月 柳はさか田の宮の日の月 蕪村

青柳はささけうきも静し 千代
 ぶつつかけて遠月れ柳は 青蘿
 くらげ小室のれさる柳は
 たこも何ふもくも柳は 木葉
 青柳むくもささけうきも 希因
 青柳やまの隈の地おつらん 蓼太
 下前もささけうきも柳は 惟盛
 草芽の上より下直送るれ 和之
 若柳や終はささけうきも 鬼市
 若柳や終はささけうきも 此節
 春 年の又小若てつひ柳は春雪 乙由
 日のひや月後車よもれ柳 紫暁
 笛つらふ小若ささけうきも 二柳
 藤臺 無出ちんささけうきも 子祐

芥 芥播やささけうきも 十六
 鶴の尻あうささけうきも 諸九
 河五 於よささけうきも 文章
 宵戸中へささけうきも 内
 菌の又ささけうきも 大江九
 春寒 けさささけうきも 二柳
 餘寒 咲けささけうきも 文素
 春霜 於けささけうきも 一鼠
 南天の鳴声すささけうきも 莫二
 春 さらけささけうきも 一笑
 今一依炭炭買うささけうきも 支若
 さらけささけうきも 蓼太
 さらけささけうきも 圃更
 雲の息も清くささけうきも 可童

雪解

雪をけりて青や板又雪は解 氷固
雪をけりて枝の雪もはたたり 二柵

氷解

氷をけて餅うぐ池のひうし 唐介
梅柳や日さぬる夕のひみ 北枝

霞

霞をけりて大井をうらうらと 露沾
沙茶やあふはうらうらと 清泉

鶺鴒

鶺鴒をけりて竹たむらやうらと 鶺鴒
夕暮の下りてうらうらと 玄兔

鶺鴒

鶺鴒のむね下りてうらうらと 一鳳
夜の忘干ぬるもさうらうらと 許六

鶺鴒

鶺鴒をけりてうらうらと 為有
鶺鴒をけりてうらうらと 梁山

鶺鴒

鶺鴒をけりてうらうらと 馬佛
古風や赤葉のすけをの風

鶺鴒をけりてうらうらと 蕪村

鶺鴒をけりてうらうらと 青蘿

鶺鴒をけりてうらうらと 馬印

鶺鴒

鶺鴒をけりてうらうらと 芭蕉

鶺鴒をけりてうらうらと 蘭更

鶺鴒をけりてうらうらと 蕪村

鶺鴒をけりてうらうらと 千代

鶺鴒をけりてうらうらと 曲翠

鶺鴒をけりてうらうらと 曾米

鶺鴒をけりてうらうらと 芭蕉

鶺鴒をけりてうらうらと 北枝

鶺鴒をけりてうらうらと 曾良

鶺鴒をけりてうらうらと 若菜
鶺鴒をけりてうらうらと 風國

雪やれのよの敷の風さう 野坡
 雪やれさうさうさうのうら 昔本
 雪のふくさうさうやれさう 比尋
 雪のふくさうさうさうさう 夢太
 雪やれさうさうさうさうさう 賀月
 雪やれさうさうさうさうさう 兼露
 雪の指がさうさうさうさう 堤亭
 雪のさうさうさうさうさうさう 猿雄
 雪のさうさうさうさうさうさう 南里
 雪のふくさうさうさうさうさう 壺中
 雪のさうさうさうさうさうさう 柳七
 雪やれさうさうさうさうさう 梨一
 雪のふくさうさうさうさうさう 斗入
 雪のさうさうさうさうさうさう 山只

魚

傀儡の赤れあさうさうさう 夏江
 白魚は價あさうさうさうさう 芭蕉
 白魚やれさうさうさうさうさう 枳風
 白魚やれさうさうさうさうさう 安眠
 白魚のちり撰さうさうさうさう 又翁
 白魚は梅ふさうさうさうさう 青羅

物

猫のはや電のさうさうさうさう 芭蕉
 呼ぶはまてさうさうさうさうさう 去来
 正月は梅さうさうさうさうさう 露川
 みるれ死めたりさうさうさうさう 史邦
 梅うれ鼻はさうさうさうさうさう 二柳
 さうさうさうさうさうさうさう 千代
 さうさうさうさうさうさうさう
 猫の意源が打てさうさうさう 素翁

二月

二月

花見と本いさし死二月廿 孝

おぼ三日縁と二月廿 大冠

おぼ三日縁と二月廿 二柳

おぼ三日縁と二月廿 青蘿

おぼ三日縁と二月廿 大魯

おぼ三日縁と二月廿 松兄

二月

おぼ三日縁と二月廿 免土

お雷

お雷お懐つと中へし 玉井

お午

お午お死のふ小松ふ杖 二柳

お午お大智はく同日土 豊重

お午おお花隊の能声 蕪村

彼方

いたつ小柿橋ておひんお 普人

ほ集

虫ももの力つひうひうんぬ 杉風

お集おおふおおの茶春時 正秀

お集おおのふおおの紙もおお 李由

お集おおのふおおの紙もおお 李東

餅お

お餅おおのふおおの紙もおお 希周

春月

お春おおのふおおの紙もおお 捨石

お春おおのふおおの紙もおお 曉堂

お春おおのふおおの紙もおお 大江丸

鷹月

お鷹おおのふおおの紙もおお 史邦

お鷹おおのふおおの紙もおお 芦角

お鷹おおのふおおの紙もおお 春猪

お鷹おおのふおおの紙もおお 梅貞

お鷹おおのふおおの紙もおお 希周

お鷹おおのふおおの紙もおお 青蘿

三月月のまらしくおろしけふ 也有

鶯 鶯おや鳩の採木けきの糞 徐産

春水 春のおやんくはいつけのさば 知白

春日 春のねや小ねまゝのさきも 杜若

春のねや春雀の砂ぼけて 鬼貫

春のねや牡丹のさきも 晩翠

春のねや春のさきも 園更

春のねや春のさきも 野水

春のねや春のさきも 素丸

春のねや春のさきも 秋光

春のねや春のさきも 知白

春のねや春のさきも 古帆

春のねや春のさきも 杜園

春のねや春のさきも 危亭

鶯

春水

春日

春

春

春

春

徐産

知白

杜若

鬼貫

晩翠

園更

野水

素丸

秋光

知白

古帆

杜園

危亭

おけりや春雀の糞 酒堂

おけりや春雀の糞 和泉

おけりや春雀の糞 史邦

おけりや春雀の糞 梨一

おけりや春雀の糞 蕉下

おけりや春雀の糞 其繼

おけりや春雀の糞 曲翠

おけりや春雀の糞 白圃

おけりや春雀の糞 芭蕉

おけりや春雀の糞 乙州

おけりや春雀の糞 乱縁

おけりや春雀の糞 蝶夢

おけりや春雀の糞 園更

おけりや春雀の糞 青蘿

春

春

芭蕉

乙州

乱縁

蝶夢

園更

青蘿

おのれさへ抱ひあうくよ春の水 大に元

水溫 あぬるむひやの湯たりのりた 阿誰

種後 種つけて隔りりる世川ホ 辨石

種前 種前や馬のふふししイ 民古

麻房 麻房のやまの小麻のつらぬらヒ 曉雨

烟寺 行くとももてて烟寺男の乳 去来

加寺や刀ふ入一とまら 泉車

ろくくち里の心烟寺のほろ 曉臺

烟寺やお家もこえよれぬる 蕪村

山麓 山麓や若麗の峰いあけり多 布舟

燒野 りゆくと音と吹出す燒野ア 呼丁

心ちる小松のゆるけのりイ 洞木

蕪野 心ちの世と音と吹出す蕪野 芭蕉

木芽 心花うついまてうる木芽のぬ 牧童

おのれ芽やまゝ湯治まふれ 沈々

食ふや木芽のつものことわれ 倉粘

構木 世の中かかこころぬるき 淳兒

十か小五かうけの構木ト 杜宇

瓜梅 瓜梅やぬえつら玉 芭蕉

瓜梅や小ほすすよれ乳ト 布舟

瓜梅やいそぬ乳ト 也有

吹まらして為瓜梅と成ふト 曉臺

構 雪のまをれししたる構ト 芭蕉

まふあて煙まはる構ト 桃隣

ま風まはる構のまらト 野坡

まらふても永くまらぬ構ト 是氷

谷のぬかまらうぬて白梅 二柳

一山のまらぬあつらる構ト 馬印

誓

誓いしうらたておし松のしね 紫重

あめで幾日ぶらうそ松のよ 團更

ま秋しつねのふねかられた 青蘿

若縁

ひまわりと友の小松やあまら 涼苑

て代のとくめおつてふみくす 夏江

糸橋

かけらよよものまてやいと橋 遅望

いさくくいなまふまの風いれ 龍石

お花

おとねや地まふ南の南 佳南

おん花や花のいろりれあふ 曉臺

おん花やせんまももくも思院 蓼太

お橋

心越て道つとくふやあさく 野坡

お橋たいていりしててくえん 紅石

あうく小松をくれうお橋 蝶友

くれりおりこの人のおまふ 羅人

も人もあまをわらうやあま 千代

はあまの田かうううおさく

嵐

物寄のちうふさくくくく 嵐雪

おんあま市よ二すのこいお 几董

小松の嵐をふ屋はうふらう 大江丸

お筆

小まう小孫のあううやおま 吞水

とらくともうら後やおま 杏林

猫伝

せーおんおんおせおつらう 嵐雪

五加才

茶の壺はわくわくや五加本伝 芙蓉

面白とぬをこや月のうらね 半策

お萩

萩の芽れをかしわらうあま 路通

お若

若の芽や四五百とくわのあ 羅城

お若菜

若菜の芽や四五百とくわのあ 園女

浦英

浦英の芽や四五百とくわのあ 牧童

たんの事なきことして伸上るよき雲郎

芥末 為中事さうふまゝ芥末に 其角

菜末 菜留まゝ水と煮る花くれ 芭蕉

母ははの事やふいねの事さうの事 采山

ふの事小母さうやぐ旭の事 東明

ふの事や馬の事さうの事 毛純

ふの事さうの事さうの事 曉臺

菜の事さうの事取や松の事 窓巴

かゝの事これさうの事 青羅

蛙かの事これさうの事 雨拍

一いの事さうの事 和及

控かの事さうの事 涼菟

られさうの事さうの事 諸九

猪排ぶたの事さうの事 乙由

芥末
菜末
蛙

風流てふあさやふの事 大元

おとくの時さうの事 蕪村

雨あめの事さうの事 千代

田いの事さうの事 青羅

骨ほねの事さうの事 風律

ややの事さうの事 一笑

世よの事さうの事 流志

てての事さうの事 芭蕉

てての事さうの事 園女

雪ゆきの事さうの事 土音

ものものの事さうの事 圃更

隊たいの事さうの事 蘭二

隊たいの事さうの事 大江丸

いいの事さうの事 支考

蝶

蜂

田

くふあしけふふるとしつ内世世愚心
陸より井生の水也内一り 曉臺

春唐

尻声よふと鳴ありもつ 鞍風

一折つて花ふりさるるしと戸 二柵

雨唐

うらふおろくてもおまの煙房 大草

けいここれいんをさるるよ山の下 大宮

碓のたのふ茶植はけんる丁 春幾

丁けて門内もさくおまのふ 蕪村

ぬいこくとさるるのてお山吹 涼菟

日のさくらやあまをうてつて 方廣

引歌

引つたあまのやあつてつて碓のた 后覺

引つたあつたあつたあつたあつた 古杭

引歌

雲よ

雲よもちふとえけてとつるや 未拙

鳥歸

おこしとこつてぬをうたさるる 斗入

雲雀

砂川や芝を流れておくれいさ 許六

ふるふるはよあつたあつたあつた 惟然

かせあふひあつてあつたあつたあつた 浪化

あつたあつたあつたあつたあつた 南甫

枝の本けさかより上りいさあつた 北童

氷のこたあつたあつたあつたあつた 北枝

あつたあつたあつたあつたあつた 乙由

吹風よ不定あつたあつたあつた 風國

あつたあつたあつたあつたあつた 羅川

あつたあつたあつたあつたあつた 如行

あつたあつたあつたあつたあつた 桤材

あつたあつたあつたあつたあつた 榮枝

あつたあつたあつたあつたあつた 一保

ねのいよは河のふゆる流す 千那

とつとあふむのつらひや流の声 吾仲

大佛やしろはひく流の声 蝶夢

かろことよ風有るの声 二柳

流して流の本が伝ふり 蘓守

燕やよめをのひくい砂 水甫

そふふふと土よすい燕が 也有

ら夏ふふのひさしと燕うね 長水

大和路はまもろも燕が 蕪村

燕やついでたりとるものちれ 空應

燕はよねねまうれまぬが 岱青

燕加よひひあが燕の巢 古帆

呼まふ 松風の尾ふらふひとまもろ 以琴

牡丹花の尾に巣つふふまもろ 三千風

若鮎 若鮎は鶴の背小たぬぬり 才磨

小鮎 流つよふ余がとむ小あられ 為有

鮎波 鮎波のよふとつてるれう 露言

規 規が一のうくれ規う舟 大冠

夕照やまうのうら規舟 團圓

村の松のうら規舟 昆明

あすの日のうら規舟 惺和

陰や三日の月うら規舟 由平

陰のころし規舟 團更

寄蜃 凡そのかも規舟 天垂

海苔 おとらへや菌は食あての山姥 芭蕉

海苔 海苔のうら規舟 尺牘

春原 春原のうら規舟 紫暁

春原 竹のうら規舟 角 行流

驚き

市中やうふけり凡中 涼苑
 こゝれのまのうねる中凡中 才春
 ことなるまのうねる中凡中 晴堂
 凡中とよふ人安き里田 大岳
 こゝのまのうねる中凡中 蕪村

三月

二月

弥生

雑

二月や清なるの流すうて 信徳
 こゝろふく風や海生の水の青 東菴
 雑さす小粒のまのうねる中 荊口
 雑さすの烈やあまの後の声 國之
 雑の飯をれまのうねる中 吾仲
 雑の間まのうねる中 曉堂
 松柳とよふ雑の顔はよ 蝶堂

出代

ふあ
あお
花

すけらるる世不のうねりし 狐登 雲堂
 較よりむいりめとまのうねる中 其角
 松風とよふ雑さすのうねる中 翰士
 小浜老とよふ雑さすのうねる中 二柳
 出代中人はまのうねる中 也有
 出代や半合とよふ雑さすのうねる中 其角
 出代の井戸とよふ雑さすのうねる中 大光
 ふ、病よつれまのうねる中 千那
 あお、ゆきまのうねる中 寄節
 花、ゆきまのうねる中 芭蕉
 花の雨網、風煙とよふ雑さすのうねる中 仙化
 花の雨網、風煙とよふ雑さすのうねる中 立志

橋

橋して鉄のせうりたつり 山店
 向ふの村のせうりたつり 共用
 産つゝの産のせうりたつり 尾頭
 たつゝの産の産のせうりたつり 二那
 産つゝの産の産のせうりたつり 柳玉
 産つゝの産の産のせうりたつり 許六
 産つゝの産の産のせうりたつり 一洞
 産つゝの産の産のせうりたつり 本導
 産つゝの産の産のせうりたつり 李由
 産つゝの産の産のせうりたつり 米登
 産つゝの産の産のせうりたつり 汶村
 産つゝの産の産のせうりたつり 曉臺
 産つゝの産の産のせうりたつり 許六
 産つゝの産の産のせうりたつり 竹阿

源橋

橋

又ふふのと産つゝの山橋 関電
 世の中ハ三日の間にさうし 蓼太
 若木と人の橋つゝの橋つれ 松尾
 又つげゝの産の産のせうりたつり 干心
 産つゝの本と産の産のせうりたつり 興道
 一本つゝの橋つゝの産の産のせうりたつり 木葉
 産つゝの産の産のせうりたつり 枯竹
 一本つゝの産の産のせうりたつり 也有
 産つゝの産の産のせうりたつり 羅城
 産つゝの産の産のせうりたつり 湖雀
 産つゝの産の産のせうりたつり 希岡
 産つゝの産の産のせうりたつり 曲翠
 産つゝの産の産のせうりたつり 获人
 産つゝの産の産のせうりたつり 青羅

月夜ふらふらしたるお松の死 暁臺

そのひかりのあかりの松の心 千代

梨の花の咲くや若山の時 波村

ふらふらとておのれを 除風

ては耳をたててさうし 支考

おんお松の歌を 梨の花 也有

昔に 愛つれてさうけつらんきつれ 稻丸

海棠 海棠のさうおつたてて 眠り 普業

海棠や 咲くさうさう 摸枕 暁臺

本蓮花 雨さうさうさうさう 本蓮花 言露

薔蹄 心さうさうさうさうさう 言露

心さうさうさうさうさう 文世

心さうさうさうさうさう 活脚

心さうさうさうさうさう 活脚

森

門のけりさうさうさう 二柳

山崎のさうさうさうさう 千那

流のさうさうさうさう 暁臺

常のさうさうさうさう 十代

さうさうのさうさうさうさう 蓼太

さうさうのさうさうさうさう 麦由

連鞠や 華さうさうさう 二柳

山女

山崎のさうさうさうさう 望翠

山崎のさうさうさうさう 蘭更

山崎のさうさうさうさう 惟中

山崎のさうさうさうさう 白空

山崎のさうさうさうさう 花洲

山崎のさうさうさうさう 朋水

山崎のさうさうさうさう 支幽

重

浅見
大曹
野水
曉

夏

四月

白重

夏衣

衣之傍ふらふ白重 嵐雪
病室の暖簾白一衣之 利半
衣之山ハ重たれ 乙由
衣之巾之目南人ハリ 幸木
西ノ娘おちやころしうえ 鬼買
塩魚のういふと目之衣 支考
名刺がころれともぬ衣 露沾
衣之ころよ帯がけかろ 嵐雨
昔のやいもせぬ衣 雨更
世にふれ人の甘う衣之 燕村

野

いんこく人のあつたあき 貞徳

あつたあきあきあきあき 芭蕉

あつたあきあきあきあき 山

あつたあきあきあきあき 鬼貫

あつたあきあきあきあき 牧童

あつたあきあきあきあき 惟繁

あつたあきあきあきあき 萬千

あつたあきあきあきあき 壽仙

あつたあきあきあきあき 千那

あつたあきあきあきあき 山店

あつたあきあきあきあき 千色

あつたあきあきあきあき 酒堂

あつたあきあきあきあき 北枝

あつたあきあきあきあき 野坡

あつたあきあきあきあき 千色

あつたあきあきあきあき 文州

あつたあきあきあきあき 飄行

あつたあきあきあきあき 希因

あつたあきあきあきあき 嵐畫

あつたあきあきあきあき 浪化

あつたあきあきあきあき 言水

あつたあきあきあきあき 杉風

あつたあきあきあきあき 大州

あつたあきあきあきあき 宗水

あつたあきあきあきあき 船水

あつたあきあきあきあき 杉長

あつたあきあきあきあき 一舟

あつたあきあきあきあき 十代

あつたあきあきあきあき

影を透りて麻のともたけりね 千輪

川紙の逢中よそ山や時ち 大州

影を透りて麻のともたけりね 飄竹

さねの日はあつとや時ち 布因

しの地紙月の板をせえり空 嵐畫

時ち二まよりし一投 浪化

時ちさうくは柱よさうりねり 言水

かゝる見すは平柳の小うさこ 杉風

時ぬるよそくさのほととねす 大州

時ちさうやいふこのころふさじ 水

子細渡の月所むけてし 水

時ちつてやちとてはねうり 枕長

逢前の麻畑ふくや杜やう 一音

男とてさうれぬりの狐時ち 十代

粟

いんげんの穂をわらひにけり 支考

かたむしはあつちのけり 大導

けりーのあつちのけり 香羅

けりーのあつちのけり 二柳

けりーのあつちのけり 臥伏

けりーのあつちのけり 占液

けりーのあつちのけり 去来

けりーのあつちのけり 曉暈

けりーのあつちのけり 風更

けりーのあつちのけり 風睡

けりーのあつちのけり 蕪村

けりーのあつちのけり 千代

けりーのあつちのけり 遊方

けりーのあつちのけり 夫仲

麦

麦の穂よつちのけり 野原

麦の穂よつちのけり 風高

麦の穂よつちのけり 瓢水

麦の穂よつちのけり 也有

麦の穂よつちのけり 紅雲

麦の穂よつちのけり 鬼買

麦の穂よつちのけり 嵐竹

麦の穂よつちのけり 蕪村

麦の穂よつちのけり 朝更

麦の穂よつちのけり 白元

麦の穂よつちのけり 上野

麦の穂よつちのけり 品丸

麦の穂よつちのけり 儿董

麦の穂よつちのけり 曉暈

粟

いんげんの穂をわらひにけり 支考

かたむしはあつちのけり 大導

けりーのあつちのけり 香羅

けりーのあつちのけり 二柳

けりーのあつちのけり 臥伏

けりーのあつちのけり 占液

けりーのあつちのけり 去来

けりーのあつちのけり 曉暈

けりーのあつちのけり 風更

けりーのあつちのけり 風睡

けりーのあつちのけり 蕪村

けりーのあつちのけり 千代

けりーのあつちのけり 遊方

けりーのあつちのけり 夫仲

山まゝ入て小舟漕りやと申 蕪村

鳥来して和と云 汝は有る 几重

晩後よまもちりぬらうと申 千代

卯花 卯の毛はたれまゝも 秋坊

ふりて卯花まの波と云ふ 支考

卯のまふも道もさう 希因

卯来又かゝの能言の白井 几重

卯来八日と持ふうとぞうらう 千代

卯来のころうと 蕪村

卯花の阜浪と云ふ 青羅

横實 さん横やまゝ鳥のさし 一路

ま横 紫操や操のいふと木念の志 里七

紫操よいふもともる 方廣

りれうよ来違ふと云 嵐竹

紫

さしあつ 地のいろやら 来山

相の 尾来ちちいさりれ 乙由

相の末やむと云ふ 才磨

雷の鳴してらりぬ 史邦

ありしむいりりも 也

名歌 ありぬや 二柳

多ううてせよと云ふ 風律

菰花 羽まの雨のま鳥や 遊林

そまふと風まのや 麦浪

玉巻鳥 小すひてうと 麦水

蚊 末鳩とて鳥をぬも 二柳

蚊のききやと云ふ 閑更

うと風と蚊のぬらぬ 蕪村

蕪村 いくとぬの蚊はと西隅と云 来山

雨はあつすししやの内 正木
 菊並て故帳冷しるるぬ 好春
 世あいにふ心のけり 故帳の中 謙山
 春ぬしとけ人故帳のつらぬ 其用
 寝いとすの故帳のぬけぬ 直生
 不ちくしとすの音の故帳か 李東
 夕の月のむせしては元 故帳か 希因
 鶯の舞つぬ宿のいやくれ 儿董
 夕のれの一つふえたるもり 竹阿
 故帳や東のつれはあつらう 曉臺
 雨桂 松ぬよとくつ柱のゆ 芭蕉
 暮 いくつとけあふたのけり 暮 都雀
 おしとたまふてあつらひれたる 曲翠
 新茶 言ちもぬさぬ故の新茶并 支考

山門とまよはれ新茶の風つる 雪齋
 風よ名のついでふくた新茶并 園女
 花名のいろけりて初茶のみ 吉仲
 花すの茶すりもは初茶のみ 昨裳
 初茶 初茶中とくつと茶さうつらぬ 知誰
 初茶 清うぬあの花や一枚能 宗瑞
 めるるれいぬさらんものよ能記 青雅
 能記さうぬあ人と能はらん 芭蕉
 笑ひてしえんら能や初茶の 岩翁
 花の系るあつたのえおつと 大江丸
 卯をよとれしめ言や能兼 二柳

五月
 骨 まづれうへふいせれ五月廿 滑川

かきく風の責る五月京 元兆

五日すての院のちやれ 桃隣

せいの五條と通る帯のけ 乙由

あやめ軒まゆの影さす 木茂

幟

山風のふぬてあつものけ 希因

糝

吉田糝のこぼれまのけ 言水

うつくしう 結せこころ 糝井 萬二

鷲野まよふし ちやれし 糝 青流

葛蒲

ひさつらちのちのけ ち田のけ 桃隣

我ふふ草よまひくちやれし 李吟

葛蒲妻

ちちり愛名をかたはとらう 乙由

葛蒲

ちちりちちりちちりちちりちちり 荷子

我をちちちちちちちちちち 諸九

持ちひてちちちちちちちち 夙更

競馬

競馬のよのよのちちちち 儿菜

ちちちちちちちちちちちち 夢太

竹所目

竹所目 外控してえ 汲分ちちちち 曉陸

葛蒲

ちちちちちちちちちちちち 拙貞

ちちちちちちちちちちちち 千代

洋

洋 ちちちちちちちちちちちち 千代

洋

洋 ちちちちちちちちちちちち 千代

藤

藤 ちちちちちちちちちちちち 希因

藤

藤 ちちちちちちちちちちちち 加生

溜るちちちちちちちちちちちち 旭若

ちちちちちちちちちちちちちち 儿董

川骨

川骨 ちちちちちちちちちちちち 芦角

川骨 ちちちちちちちちちちちち 隨友

川骨 ちちちちちちちちちちちち 素堂

葉菜 引ふしつらねたてしとぬき 尚白

葉菜 湯かきしつらぬきぬきねた 乙由

花 若の花松とほろしれおす 馬印

花 たくおのまのらふわぶのふ 山店

葉菜 ちりちりしつらぬきぬき 千代

葉菜 赤とほしつらぬきぬき 文雅

葉菜 ちりちりしつらぬきぬき 大江

葉菜 ちりちりしつらぬきぬき 此原

葉菜 ちりちりしつらぬきぬき 芭蕉

葉菜 ちりちりしつらぬきぬき 嵐雪

葉菜 ちりちりしつらぬきぬき 東志

葉菜 ちりちりしつらぬきぬき 希因

葉菜 ちりちりしつらぬきぬき 旭芳

葉菜 ちりちりしつらぬきぬき 旭芳

夏

ちりちりしつらぬきぬき 千那

ちりちりしつらぬきぬき 支考

ちりちりしつらぬきぬき 素繪

ちりちりしつらぬきぬき 斜鐘

ちりちりしつらぬきぬき 朱迪

ちりちりしつらぬきぬき 史邦

ちりちりしつらぬきぬき 配力

ちりちりしつらぬきぬき 鬼貫

ちりちりしつらぬきぬき 此筋

ちりちりしつらぬきぬき 杜宇

ちりちりしつらぬきぬき 蕪村

ちりちりしつらぬきぬき 蝶夢

ちりちりしつらぬきぬき 大督

ちりちりしつらぬきぬき 重頼

なましく小枝ありてつらまゆ可董

移よのしくよ味いなる布舟

筆 筆が折る音ひくひるる後 後茂

筆は進ひぬれたる後うれ 揮毫

筆の立ち喰の心きし 支考

筆や三日のうたえさら 千代

差弁 差弁よ去のころや四十雀 風國

根がとらるる音くも非 擧良

差弁ふおふしきこのちりが 大在丸

青枝 青枝もころり勢の小月ひか 杜旭

枇杷 人あつやまの枇杷うふ鳥 楚常

橘花 このふくみ枝よふの山ぬが 芭蕉

うすのしきもなき枝が 乙由

枝振さ さいわい古葉よるまきもあは 支考

玉振 揚るまきもろくやうりうり 乙由

たらと枝やふれ枝のまのうら 春柳

抽ふ 一枝はしらひささるむ枝は 蓼文

松栢ふ 志ぐる足あの一つをむ松栢 重厚

栗ふ 雷よ門つれらりうりのこれ 梅實

枝花よみ音としくれさ 乙由

竹ふ

窠ま

田植 植つりおと月門田ぬ 青蓮

木の枝のほし押よて田植は 古道

まきとのまきとてあさの田植は 支考

田の軒の田植やうりひる半 梅子

池のあつてむけて田うりうり 兒童

あひく小枝つ合て田植は 乙由

梅雨

白鷺やまもなくもぬぬ梅雨の中ナカ不王

夕暮のやまもなくもぬぬ梅雨の中ナカ都衣

水鏡

ぬる風呂と雲と一とらふの音ネ弘成

ふひふや夜やぬぬぬぬぬぬナ北枝

ふらふらと人狂言うひぬぬナ伯之

日くしとぬぬぬぬぬぬぬナ劇更

はらふらふと来ぬぬぬぬぬナ青羅

老翁

嘗や六乃うけて故の体ニ渭川

言言

嘗の言ぬ入てたぬぬぬニ鬼貫

羽後考

たつ不とのぬぬぬぬぬぬナ一扇

浮葉

はらふらふと来ぬぬぬぬぬナ團更

鬼の脊骨たぬぬぬぬぬぬナ嘯山

あなぬぬぬぬぬぬぬぬぬナ窓巴

行山

つれぬぬぬぬぬぬぬぬぬナ行山

いせぬぬぬぬぬぬぬぬぬナ馬佛

里川やぬぬぬぬぬぬぬぬナ来山

ふらふらと来ぬぬぬぬぬナ去来

梅無

ふらふらと来ぬぬぬぬぬナ史明

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬナ時臺

螢

草の葉ぬぬぬぬぬぬぬナ芭蕉

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬナ蘭子

柱木のぬぬぬぬぬぬぬぬナ野徑

田の入りぬぬぬぬぬぬぬナ萬子

きく彼のぬぬぬぬぬぬぬナ芦本

しぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬナ青峨

堂よりぬぬぬぬぬぬぬぬナ文章

月まぬぬぬぬぬぬぬぬぬナ正香

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬナ也有

蟬

花入てけ筋力ねと量これ
道よ人のいりりかきもるきか
月のおおれおふううううう
流灯ふううううううう
うの虫いおんこ蝶のこと蟬
蟬平竹ふりし角のことうしり
三日月の指よとしとらふり
わのこもる南じかんの入蟬牛
ふふふふふふふふふふふ
子ふふふふふふふふふ
枕の本まうううううう
鼓まや毛虫のこるる鼓の上
雲ま蝶ぬ門の虫やふひり
蝶まふふふふふふふふふ

子

重厚
大宛
百明
河瀬

毛虫

暮太
西吟

重

百明
河瀬

蝶

羽按

蝶ふううの虫とおひりふ
もろもろやまの上のおひり
夏の日や入ひうふたれぬ
その度た月よといてふれ虫

方廣

大取虫

いふせても入ふれもかろ虫
かふふも風土とた門のう
かろろや月のううううう

野風

服射

子かよふうううのううう
武士のまの眼まのまのま
宿まうう宿のねこひふ大まま

嵐野

火岸

幻や火岸ふまての藤入り
麻子のうううううのうう
芥の青にまてて乳の所す藤

桃隣

麻子

芥の青にまてて乳の所す藤

紫鏡

五明 羅城
草の生ひしむらひの森

六月

六月 六月や露のたたりし山 芭蕉
 六月や風よつれてぬらへ 鬼貫
 六月の雨のつ門や井一尾 虚谷
 六月や夕暮のふり三井のこ 蓼太
 水音 六月や朝のあけも塩餘 芭蕉
 六月や夕のあけれるみり侍 亥魚
 氷室 六月のこいんせう 氷室忠吉 言水
 坂のふねの都のこいんせう 二柳
 ひびきもぬくまの清ぬへし 大江丸
 氷水 六月のこいんせうの御溝水 二柳

一夜酒 星のこいんせうの一夜酒 盤水
 高き福 ぬらひぬらうやふ二角 沾湖
 田のまのに遊遊としてま士清 亥魚
 徳意亭 五月の夕やまの夕 蕪村
 月祥やんまの夕 境蓮
 柳枝 けりもけりも夕 三圃
 つくりつて社堂しては流石後部 蕪村
 茅糲 五月の夕やまの夕 言水
 籠茶 けりぬらひぬらう 蕪村
 風書 五月の夕やまの夕 蕪村
 行もけりぬらうの風 窓巴
 さく波の風のこいんせうのお花 芭蕉
 青菟 けりぬらひぬらうの夕 史邦
 村のこいんせうの夕 重厚

蒲子

蓬きつれちとん土用丁 去来

湖の風くまたり土用丁 羅城

去

かきつらふしつるも相神 大冠

暑

相猫のぼとよ遊ののりよ 昌茹

不ふしふいふれぬ 秋風

猿史のころうりふる 時中

まあしふふひふは 氷谷

白ひま 蓮 蓮望

果ての心 柳の本ふるのやねが 素堂

村角の本 絨の道 其角

ふふふふふふふふふふ 二柳

涼一も 涼一も 其考

涼風も 涼風も 許六

涼一も 涼一も 涼一も

納涼

涼一も 涼一も 涼一も 蓼太

月涼一も 涼一も 涼一も 也有

涼一も 涼一も 涼一も 千代

川風も 涼一も 涼一も 芭蕉

ぬけくさ 涼一も 涼一も 夫州

影あかり 川風も 涼一も 蘭子

可憐も 涼一も 涼一も 去来

まじり 涼一も 涼一も 宗次

まじり 涼一も 涼一も 一珍

まじり 涼一も 涼一も 園女

影あかり 涼一も 涼一も 其角

まじり 涼一も 涼一も 李下

まじり 涼一も 涼一も 單彈

まじり 涼一も 涼一も 乙由

白雨

雪はしらも歌をよめていそぎに 園女
雪本まよふけつとま来てはるか 山吉
夕まのこけけ放きつしのへ 昌房
夕まのほろこまよふて何ふね。 蛙
白雨の粒やこ谷のひの本下流 蘭舟
夕まや粒まぶつくねのやよ 鞆風
夕まのこけけけけのやねり風 利牛
夕まやひりしこまよふてはるか 李由
夕まや麻の匂のほろとする 徐寅
夕まと追り浦の鳥のね 馬印
可らうふまてけけけけけ 白仙
夕まのつる木の根と下流水部 雲風
木の中小こけけけけけけけ 宗比
夕まのねやけけけけけけけ 夢太

清水

東 素 雪

あまのいほとさうけうけ 千代
あまのいほとさうけうけ 蕪村
あまのいほとさうけうけ 儿董
あまのいほとさうけうけ 方廣
あまのいほとさうけうけ 芭蕉
あまのいほとさうけうけ 也有
あまのいほとさうけうけ 許六
あまのいほとさうけうけ 鬼貴
あまのいほとさうけうけ 八橋
あまのいほとさうけうけ 路裡
あまのいほとさうけうけ 范亭
あまのいほとさうけうけ 史邦
あまのいほとさうけうけ 去来
あまのいほとさうけうけ 馬印

青

築のまきもひらるる夏の月 諸九

芒穂てきういふせむや夏の月 作若

あの上りきいぬとて夏の月 團更

夏の月を世の上のぬいし 大江丸

扇

言うつや白紙扇の風あうり 良品

扇も扇うりきうり 杉風

扱ありたのまやふら扇 儿董

法なうらぬハ紙ぬる扇うれ 大紅

扇

こした扇さきの青や板の門 太紙

日の影と揮てわらふ扇 團更

ま秋とさぬそはれ扇うり 涼菴

唯

妙は扇帯もとせぬ風う吹 杜若

行

行まうり扇うらや旅ん 諸九

行

常治の扇中とて行旅 嵐堂

抱

帯の氣成一むのり行旅 一礼

抱糸や夏よ味ひも汗は法 也看

抱糸のこりた一枚二枚うね 百尾

竹

うつせいの名ふしたる竹 希因

草

扇程より風さうたるひら 蕪村

草

扇あはれうりて晴し老うれ

水

水の移れさうよまそぬ叫の屋

水

於礼のよもふらりやん太 其角

風

風扇も我も信世の中ある 進女

蓮

びく紙や一葉うりまうり 玄海

枝形くつものゆいゆい 三平風

蓮二本とれハ海やうりた 白魚

身あはれ流やまのこをうり 曉堂

ゆうりやあも動みまうり 大魯

一蒲種 着け不申子代のぬいて移りし 可圍

夕氣 夕氣のしぬよふぬふらふら 乙白

五丸 吾子や小葉つとほむとらし 色蕉

吾子のぬいひつれは枝は海 何中

吾子や枝の太路の人のふ 二柳

吾子や枝のふふむつらう 大匠丸

吾子のぬいよふらふら 馬印

曹巻 雨降や燈のこりも曹巻は 嵐竹

曹巻 ふてこの世がしんぞく 惟然

枝ふふらぬらぬらぬら 騏道

川風やびらとつらぬら 等船

石竹 石井のぬとふらぬら 紫暁

蒲種 丹波路や縁のよのよ 蘭更

これもぬらぬらぬら 風皆

種麻やふらふら 浪化

茶蕉 きのこのもぬらぬら 谷水

花とよふとふらぬら 色蕉

むらやわらぬらぬら 曉堂

あつたぬらぬらぬら 無村

丸 田代筋小世帯ひきき丸 涼菴

丸の皮むつらぬら 色蕉

ちんちん花のよふら 相因

林檎 つやしとてぬらぬら 尚白

一輪のぬらぬら 万居

障 障うし本よこむらぬら 其角

障の其木もぬらぬら 鬼買

霞の青れしつむや風のさうらふ会 紅石

並松や二とら過るほのまの 狐山

山風の吹くやうらうらほのまの 雲

相の本のさうらうらやほのまの 秋人

とらの葉のまのまのまのまの 昌物

松風のまのまのまのまのまの 千代

川うらやほのまのまのまのまの 杜若

扱うれてまのまのまのまのまの 此筋

と月や潮は進むむねのまの 從吉

ひあやこしとこまのまのまのまの 二柳

秋道 秋とく 苗代江の輪のまのまの 汶村

秋とれまのまのまのまのまの 除風

秋道への秋のまのまのまのまの 國

七月

義 ひしりしと木葉秋を秋とま 鬼置

秋まのまのまのまのまのまの 浪化

まの秋のまのまのまのまのまの 北枝

まのまのまのまのまのまのまの 角上

特まのまのまのまのまのまのまの 尚白

ひりしとまのまのまのまのまのまの 也有

まのまのまのまのまのまのまの 二柳

秋まのまのまのまのまのまのまの 児童

秋のまのまのまのまのまのまの 大江丸

まのまのまのまのまのまのまの 青羅

まのまのまのまのまのまのまの 葉木

秋まのまのまのまのまのまのまの 路樹

秋田陸まきしきつる雨 毛統
 秋田親よくお進し浦力え 采
 秋田やわらうすくは早のいら 二押
 秋田やなまててまひは坂の道 松兄
 七夕やつるすまよとる川の流 鏡花
 七夕や月夜まよとるおひの道 前口
 七夕やもて川まよとる牛車 嵐雪
 うねううし青七夕や市街堂 遠雅
 せまふれていろはまきりかへて 燕下
 酒のうとねく酒の心早進 去来
 早合 誓のふれかへる神さしし正 青羅
 早合のそと陸やうはまきり 凉菟
 早合も心まの尾のまれお 几董
 藩への救由ひまけて早ま 園女

枕洗 七夕や机のまよめくひあけ 吉女
 鶯橋 都やま橋のしはねくまて 大冠
 大の川 様とめよまの道やてれ川 此筋
 大切おあはぬかろうてれ川 其角
 天の川 天の川もつる本まのそまお 蘭更
 月うけもけとれあせ天の川 珈京
 月くくくくくくくくくくくく 卓袋
 盆月 盆の月まよとる門松と夜う 野坡
 盆よ似く盆渡のこも盆の月 青雅
 月のも盆橋の下れくくあり 卯七
 故のまよとるくくくく盆の尻花 團更
 魂系 とうとうのまよとるくくくく 乙由
 伝へものまよとるくくくく 卓袋
 魂系まよとるくくくく 泥足

韻

草花の万のねとあはれは秋の葉香
 びしとて枝は茂る角力より 芭蕉
 面掛けのしんじつたる角力 春哉
 下帯のしんじつたる角力 許六
 角力たるのねとあはれは秋の葉香 木尊
 山はののしんじつたる角力 盛弘
 角力たるのねとあはれは秋の葉香 六合
 角力たるのねとあはれは秋の葉香 大九
 角力たるのねとあはれは秋の葉香 指華
 角力たるのねとあはれは秋の葉香 支考
 角力たるのねとあはれは秋の葉香 北枝
 角力たるのねとあはれは秋の葉香 千代
 角力たるのねとあはれは秋の葉香 乙由
 角力たるのねとあはれは秋の葉香 芭蕉

葉

籠

秋風

鶉の尾ふつれりあはれは秋の葉香 荆口
 身は入るる人根はは秋の風 芭蕉
 大根の二葉よとあはれは秋の風 素覽
 流抄の個なとあはれは秋の風 千那
 川もやせむるあはれは秋の風 從吉
 せぬかやあはれは秋の風 志井
 秋風やこれ眼のそとあはれは秋の風 風律
 春の根やとあはれは秋の風 九北
 さひらきやとあはれは秋の風 波村
 とろろとあはれは秋の風 陽和
 秋風やとあはれは秋の風 蝶夢
 秋風やとあはれは秋の風 大江丸
 秋風やとあはれは秋の風 無村
 秋風やとあはれは秋の風 青羅

秋風や巻くふらふらと暮れぬ 曉暈

秋雨

秋のふりそよふとてしづかき 清原

秋の心細の産のちかちかたる 孤袋

兼島の一泊ひや秋のこゝ 李由

藤

朝つゆや飽のしづかきく 吹峰

白雲や暮のくらくらつ 燕村

大粒よ遠つゆさくさくの乳 青羅

我らふぬ枝まのり世は 大江丸

枕柱の芽しやまねいし 北枝

香

香らふ花中のちかちかの松 卓夫

鈴鹿のやみぬ枝まのり 毛純

朝川やみほへ入音れ中 蘭更

権書

ふらふらとてしづかき 嵐書

桐つゆあはれてあはれ 大葉

ふらふらとてしづかき 洞梨

ふらふらとてしづかき 曹町

ふらふらとてしづかき 一露

桐つゆあはれてあはれ 金羅

桐つゆあはれてあはれ 史邦

桐つゆあはれてあはれ 千代

秋の心細の産のちかちかたる 吾仲

兼島の一泊ひや秋のこゝ 挑妖

白雲や暮のくらくらつ 芭蕉

大粒よ遠つゆさくさくの乳 涼菴

我らふぬ枝まのり世は 馬耳

枕柱の芽しやまねいし 安永

香らふ花中のちかちかの松 野重

希因

之由

曉臺

青蘿

秋梅

香霞

搖擲

露川

芭丹

鐵葉

限搖擲

畫

蘭二

萬字

青蘿

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

畫

野

常不したるてまゝのむ 風國

たうらう人とうまふれぬか 柳妻

あつたふ二つ入瓶ふれぬむ 專明

水ありやあつたの歌いぬか 園更

白衣やいさひのふとあつた 青羅

あつたふふつてまゝはあつた 鬼貫

あつたふはあつたまゝのむ 黄唇

風の音あつたまゝのむ 大江

あつたふあつたてあつたのむ 斗入

あつたのむあつたのむあつたのむ 蓼太

あつたのむあつたのむあつたのむ 巨雀

あつたのむあつたのむあつたのむ 休計

あつたのむあつたのむあつたのむ 鬼貫

あつたのむあつたのむあつたのむ

義

秀

野

義

秀

義

秀

義

秀

義

秀

義

秀

義

秀

義

秀

義

常不したるてまゝのむ 風國

たうらう人とうまふれぬか 柳妻

あつたふ二つ入瓶ふれぬむ 專明

水ありやあつたの歌いぬか 園更

白衣やいさひのふとあつた 青羅

あつたふふつてまゝはあつた 鬼貫

あつたふはあつたまゝのむ 黄唇

風の音あつたまゝのむ 大江

あつたふあつたてあつたのむ 斗入

あつたのむあつたのむあつたのむ 蓼太

あつたのむあつたのむあつたのむ 巨雀

あつたのむあつたのむあつたのむ 休計

あつたのむあつたのむあつたのむ 鬼貫

あつたのむあつたのむあつたのむ

稻葉

君が代はくさくさぬらぬら一葉

菰花

異ともまのつらつらつらも 菰花

早稲

早稲のまら中の中の人かん 四翠

早稲のまら中の中の人かん 露川

夕のしやふ稲たものいふ 松鶴

子稲のまら稲たものいふ 志若

りんか門田のふ稲と稲のり 之道

唐草

唐草は極あはせりの竜らし 史邦

やう枝の枝やふり枝らし 支考

露草

露草は月うけおてのり 呂曉

露草は月うけおてのり 團更

鳳仙

鳳仙の眼のやまや鳳仙 井雨

西丸

猪の鼻くすつらん西丸の 外七

芋草

芋草はつけてあつくすは 露川

芋

いといくやぬま月をむなる水 山川

又のころんおぬくの月の芋 大晃

一葉

桐の葉はあても下よ度ぬ 鬼貫

乃つらと一葉のちや松の上 有収

暎のまらと中より一葉うれ 夢太

若柳

あほくふつて柳のたぬ日 色蕉

柳ちるやちるうと陸の目 土芳

いひいよち花を井も若柳 達中

あつたのれとあつたのれ 大江丸

木槿

せんろふあてくへは木槿 知足

咲後、作向くあつたけ外 乙由

ゆくのあまの葉や木槿 曉堂

會

二日月の角のつらつら木樨花 希因
 灯のよまもよふやね枝の心 藤葉
 赤禪のうらむらむらやとけり 壺中
 土の音やおとけて流るる中 園女
 うらつらつらつらつらや枝の虫 文鳥
 日清てまふららのつらつら 蘭更
 虫の音ふらつらつらつら 青蘿
 雲の音ふらつらつらつら 文竹
 養声のせつらつらつら 乙由
 紫鶴おふらつらつらつら 雲鈴
 音の音ふらつらつらつら 感宇
 鈴音おつらつらつらつら 荻人
 むらつらつらつらつらつら 除風

春

今うた命のつらつらつら 夢太
 居風おつらつらつらつら 希因
 音の音ふらつらつらつら 二柳
 軍とれく身つらつらつら 青羅
 法華のつらつらつらつら 木朶
 後接のつらつらつらつら 千代

夏

今うた命のつらつらつら 夢太
 居風おつらつらつらつら 希因
 音の音ふらつらつらつら 二柳
 軍とれく身つらつらつら 青羅
 法華のつらつらつらつら 木朶
 後接のつらつらつらつら 千代

電

今うた命のつらつらつら 夢太
 居風おつらつらつらつら 希因
 音の音ふらつらつらつら 二柳
 軍とれく身つらつらつら 青羅
 法華のつらつらつらつら 木朶
 後接のつらつらつらつら 千代

秋

今うた命のつらつらつら 夢太
 居風おつらつらつらつら 希因
 音の音ふらつらつらつら 二柳
 軍とれく身つらつらつら 青羅
 法華のつらつらつらつら 木朶
 後接のつらつらつらつら 千代

冬

今うた命のつらつらつら 夢太
 居風おつらつらつらつら 希因
 音の音ふらつらつらつら 二柳
 軍とれく身つらつらつら 青羅
 法華のつらつらつらつら 木朶
 後接のつらつらつらつら 千代

鈴子や雨よ千枝の下むさひ 二樹

鈴子の雨やしらべふけは 曉臺

夜織 こころのねたむるこころのねたむる 十明

こころのねたむるこころのねたむる 四睡

美忠 こころのねたむるこころのねたむる 芭蕉

冬 こころのねたむるこころのねたむる 伝水

こころのねたむるこころのねたむる 野徑

こころのねたむるこころのねたむる 其由

近頃 こころのねたむるこころのねたむる 麦光

秋蚊 此の葉よ蚊のゆくゆく力お 野往

秋蠅 秋の蠅たむる扇よこころのねたむる 渡舟

蠅たむる死ぬ口とこころのねたむる 曉臺

秋蝶 秋のこころのねたむるをとおの布 青羅

葉よこころのねたむるよ秋の蝶 支考

拾遺

酒の美さうねんかの大池 古忱

遠のやとんつりけいこる 秋彦

桐 桐や鳥もさるけい一墓の松 蝶夢

桐や鳥もさるけい一墓の松 蝶夢

秋蝶 秋の秋の秋のこころのねたむる 示蜂

秋の秋の秋のこころのねたむる 示蜂

秋の秋の秋のこころのねたむる 青羅

秋の秋の秋のこころのねたむる 曉臺

八月

八月

八朔 八朔の酒の利さるねますか 許六

八朔の酒の利さるねますか 祐昌

田面 田面は白くも出し田実の田つり 白雄

彼者 彼者は秋のいろんのかげ 木導

整

山花や花やうけては生念 乙由
放生會花ハ升まきにまきなり 萍丸

弱

弱じやくはまさまらうハりままらう 正秀
糸いとままらうハり弱じやく成なりのりうう 浪化

情

情じやうのりやじひひここささらら 正秀
情じやうやねままととままらうのりね 希因

名

情じやうやねままととままらうのりね 原松
情じやうやねままととままらうのりね 二柳

名

名な月づきやまらうのりね 如元
名な月づきやまらうのりね 漸春

名

名な月づきやまらうのりね 木枝
名な月づきやまらうのりね 言角

名

名な月づきやまらうのりね 言水
名な月づきやまらうのりね

名な月づきやまらうのりね 去来

名な月づきやまらうのりね 芦本

名な月づきやまらうのりね 明菴

名な月づきやまらうのりね 乙由

名な月づきやまらうのりね 南盛

名な月づきやまらうのりね 園女

名な月づきやまらうのりね 怨風

名な月づきやまらうのりね 千代

名な月づきやまらうのりね

今身

今いま身みのりね 嵐雪
今いま身みのりね

我われ門かどハらふらふらふらのりね 青藤

我われ門かどハらふらふらふらのりね 土芳

月

月つきのりね 守武

月

蜀黍の穂のしりしり
 沖の波のしりしり
 楓の木のしりしり
 雪の平のしりしり
 春水のしりしり
 青楓のしりしり
 海堂のしりしり
 近之のしりしり
 靑羅のしりしり
 晴雲のしりしり
 土若のしりしり
 大蛇のしりしり
 尚白のしりしり
 秋の木のしりしり
 雪の木のしりしり

十景

雨月

新月

月

酒紅の木のしりしり
 紅葉の木のしりしり
 洞梨の木のしりしり
 雲霧の木のしりしり
 正秀の木のしりしり
 金羅の木のしりしり
 干梅の木のしりしり
 東山の木のしりしり
 十梅の木のしりしり
 宇鹿の木のしりしり
 七華の木のしりしり
 十夫の木のしりしり
 杉風の木のしりしり
 桃障の木のしりしり

無一ふもとのとくれ月夜抄 拾見

独の森ふりくちや 霞の月 去来

月代や雀ごころつく 霞の中 田原

半良 世はまふ人よ けひたり 是月夜 雨聴

切波 秋夕やきよき 露のふりしやと 夢さ

秋暮 死もせぬ 秋原のそよ 秋のふ 芭蕉

深まの 鴉う鳴きも 秋のくれ 乙由

大さく 秋の 遠ひくら 秋のくれ 角上

ものつく ぬんそろ せり 秋のふ 乙由

秋のよえ せり 秋の 秋のくれ 雲鼓

秋のくれ 秋の きのふも 廿日は 千梅

秋のくれ 秋の けしき 人の 秋のれ 野坡

日あつら 秋の 秋の 秋のれ 正秀

秋の 秋の 秋の 秋のれ 言水

夕ぐれ 秋の 秋の 秋のれ 風圖

秋の 秋の 秋の 秋のれ 儿蓮

秋の 秋の 秋の 秋のれ 青羅

秋夕 后風 秋の 秋のれ 水魚

秋夕 秋の 秋の 秋のれ 正秀

秋の 秋の 秋の 秋のれ 支考

秋の 秋の 秋の 秋のれ 秋色

秋の 秋の 秋の 秋のれ 大叶

秋の 秋の 秋の 秋のれ 青羅

秋の 秋の 秋の 秋のれ 也有

秋の 秋の 秋の 秋のれ 風差

秋夕 秋の 秋の 秋のれ 鬼貫

秋の 秋の 秋の 秋のれ 由仙

秋の 秋の 秋の 秋のれ 大江丸

枕き

うつろひて枕をたぬ枝の枝くれ

蘭更

胸を

そよよと花のむと袖に袖

風回

秋衣

かきし早穂のひつらつら

野童

秋衣

秋の衣やそよよと袖に袖

松泊

永衣

衣のよふ衣も水一様ひも

北枝

其葉

せねおやあつらふら日のま

其葉

塵生

着の葉のたりにてのたれ

塵生

白空

こゝろのまじりたる暴風

白空

秋帆

秋風の松とむさるれに

秋帆

希因

ほろりひのれとむさるれに

希因

也

月とぬれぬと鳥鳴れに

也

青羅

黒羅衣とむさるれに

青羅

燕村

村をやんで嵐のよそへ

燕村

山見

月夜てみよまきとむさるれに

山見

芭蕉

あまのこころの山とつらき

とむさるれとむさるれに

鶴入

鶴入は海のかたむら

乙由

そのよそへかたむら

蒲道

鶴入やとむさるれに

青羅

土芳

土のほろりや林のつら

土芳

知白

さう然のほろりや

知白

可蓮

美そのをよとむさるれに

可蓮

牧童

あつらふらとむさるれに

牧童

曉堂

秋陰の雨かたむら

曉堂

言水

山はよとむさるれに

言水

二柳

あつらふらとむさるれに

二柳

大丸

かたむらとむさるれに

大丸

舞鶴

二つおく人の心やとねふくしたき 生餅
白りしをい昔にわづくへ 凡兆

舞臺

冬丸

鳥丸

お房

馬

舞臺

馬

舞臺

かし丸やをい集うとたられし 圓木
市人の心やとねふくしたき 凡兆

おしおいていひいり鳥丸 夢太
初下中おらうてたれいさきよの 千代

お下中おらうてたれいさきよの 千代
お下中おらうてたれいさきよの 千代

木つたの入りりり敷のた 文章

山雀 ふうや櫃の光木よ森にせら 蕪村

百舌鳥 草茎よ徳の心パーられり 野坡

栗採や日入るる徳の心 曾米

徳唱て風眼とまろくれ 團更

徳唱やう白の徳の杖の末 也右

徳も 藤井の弱も一徳やあけ後 沾葉

徳も クルれとておす徳の羽吉か 一保

鶺鴒 せとれいや望土とぬる畔の上 磨盤

鶺鴒 三まふとてくれとて 即高

そとれとてせとやあつら 飄行

まのつひふ鶺鴒のまのけりし都 希因

風吹く小舟よ流るるのやせ終 境臺

う〜れとも秋風忘るる終都 千代

ゆ恵 とうとうと去風とて 蕪村 鶴立

越吹 徳唱やうとて徳とよら 托巾

山依の鳴ふくオノ入ふら 嘯山

餅 ついで来一石の下とて 團更

鳴きやうとけハ谷とらけ 一口

鞋 鞋のオとてあ上とて 風孤

鞋をんよと 徳のさ川に 圓木

糸 おととていととて 蕪村 蕪葉

おあし小尻におれ徳の麻 惟然

あつれとや日のでる心 萬宇

徳とてなまるとて 希因 村若

麻のさや角のいろとて 白獅

鳴つけとてお終とて 轍土

ふらやあ〜ん終て麻といふ 希因

陽川

木導

園更

大丸

蕪村

千代

雲口

野坡

正秀

探芝

大元

如泉

蕪村

書出

大元

如泉

蕪村

探芝

大元

如泉

蕪村

探芝

大元

如泉

蕪村

探芝

大元

如泉

蕪村

探芝

大元

如泉

鳴

也

馬印

陽和

大曹

希因

湖天

秋色

蕪村

蕪村

蕪村

蕪村

蕪村

蕪村

蕪村

引板

秋色

蕪村

蕪村

蕪村

蕪村

蕪村

蕪村

流水

落水

稻

稻村の稻とてある存うぬ 孤屋

箱とける板も板一の葉部 馬印

田刈

箱刈や付まきうねの葉部 葉枝

田刈のおもふまかりて田刈部 也有

産植

産植いりうねの葉部 乙由

産植はひりうねの葉部 葉枝

葉

葉のこも葉とて浦の釣葉部 支考

粟

粟畑のたくりうねの葉部 空芽

九月

九月

あつた九月はわが葉部 水魚

葉部

りふの葉中箱の飯のこも部 戈磨

九月ふきくねの葉部 待彼

つらねの葉部 宇月

出代

出代牛の葉部 金毛

産

はるふの葉部 八乗

はるふの葉部 其角

たつたもの葉部 千代

葉畑の葉部 佐角

葉畑の葉部 杉風

葉畑の葉部 希因

葉畑の葉部 也有

葉畑の葉部 燕村

葉畑の葉部 青羅

月名

月名とて月の名部 正夷

外市

外市の葉部 浮風

八合の月とて外市の葉部 雨聴

牛系

牛系の葉部 燕村

市選

市選の葉部 五吟

菊

若木松の葉よひ一かたけむ 支考

白雲の霞よひ一かたけむ

乙由

塗ののちうらふや菊のむ 木導

水辺の赤よれつちのまじく 丈草

りだのまじかいつくし菊のまじ 嵐

笑ひのまじかいつくし菊のまじ 越人

病草のまじかいつくし菊のまじ 千梅

冷酒のおよめつちのまじく 佃房

相づのまじかいつくし菊のまじ 千代

あまのまじかいつくし菊のまじ 蕪村

ふたかたのまじかいつくし菊のまじ 蘭更

ふたかたのまじかいつくし菊のまじ 大江丸

ふたかたのまじかいつくし菊のまじ 雨江

菊

若木松の葉よひ一かたけむ

菊

月夜よひ一かたけむ 青蓮

雪の雨松とらぬく 菊のむ 亀世

たけつちやまに穴をくくく 座羅

ふくらむ草のまじかいつくし 蕪村

松のけやまにれ声のかくれ葉 吾仲

松のけやまにれ声のかくれ葉 惟然

松のけやまにれ声のかくれ葉 甲乙

松のけやまにれ声のかくれ葉 大江丸

松のけやまにれ声のかくれ葉 支考

松のけやまにれ声のかくれ葉 李由

松のけやまにれ声のかくれ葉 蕪村

松のけやまにれ声のかくれ葉 支考

松のけやまにれ声のかくれ葉 支考

松のけやまにれ声のかくれ葉 蘭更

葛葉

木の葉のこぼれはしきるぬま

作

松

いつくぬ松よりきりぬかた

祐昌

木実

孫らへ木実の中は森のふん

李里

板美

木子も板美もちひに板美あり

鬼貫

梨

ま梨も為母らせ、秋の水

大江

栗

古ちや栗は生る板の下

鬼貫

栗は撰る栗は松葉や並より

射江

栗はつや栗の今もふのた

青羅

冬栗

冬栗のこらひめさるる海

牡羊

冬栗は蟹科く民の朝餉

凡此

柿

ま越て又柿より後これ

大抵

柿の形も木をさるるのふ

利牛

飯材

飯材や飯の内よりこの道

佐嘉

熟材

ましりては秋のましりては秋

支考

つてつて熟材はるる月おれ

ましりては秋のましりては秋

推

あゆ中二平より推の推より

沾徳

推はる推川の吹のいりり

蕪村

拍案

拍案の月刈りやれをた

二柳

未枯

未枯や葉槽こらるるの垣

北枝

未枯や西日はいつつ鳩の後

曉堂

今集

まつりては秋のまつりては秋

几童

今集

まつりては秋のまつりては秋

大江

水上は汲んをとる折酒は

古帆

綿

日しりや路よりきりる海

富定

柿葉

まの葉とてんは柿の葉

京苑

後船

後船やまの海は流の船

重頼

後船

あちり船はひらりる心

嵐雪

懐紙一紙はつたの音 春坂

彌引 引上りて空のそとへはくす 白扇

為薬 うつすまゝの魚の住まふがふ 大船

稲丸 稲のつらうつらうつたての 稲丸

七里 藤よはすておしとまゝ居るが 七里

支考 生果はちちちちちちちちちち 支考

千川 雁はまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 千川

柳太 松茸のまゝのしゝれはれはれ 柳太

毛紙 灯火は風うらつたるはこれ 毛紙

青蓮 仁れちち門のおるをた 青蓮

几童 よそのおゝおゝおゝおゝおゝおゝ 几童

大曾 青蓮のまゝのしゝれはれはれ 大曾

千代 雪芝

雪芝

雲雨

かきまけて木まのうやまの時也 幾睡

糸のまのしゝれはれはれはれ 希因

冬行 比久目も出てはるやのまゝ 露川

秋晴 戸を叩く狸と秋を情とをり 燕村

雪秋 秋られてはれはれはれはれ 昌碧

行秋 行秋や霧ももまへつたれは 芭蕉

乙由 行秋の比久目も出てはるやのまゝ 乙由

大車 行秋よまゝの住もかたはれは 大車

杜生 行秋やあゝ人と住せり 杜生

裁人 行秋やのらぬうらぬ山 裁人

二柳 行秋やのらぬうらぬ山 二柳

大冠 行秋やのらぬうらぬ山 大冠

冬

十月

初陽

いとあつる積のよめは初陽雨 支考
 秋さきのやぬのまつくも初陽也 許六
 故つよもみ枝あり初一くれ 前口
 はこつらぬのゆひめやふ時も 野坡
 其葉のぬのさかみか一くれ 乙由
 初一これ神かよ骨のうらむ 西谷
 を返してゆくうひたの初陽也 諷竹
 こけちの死しては枝もみ時も 青蘿
 筆控て暮ぬかやも初陽 淡々
 中へもみけり一れつ初一くれ 蘭更
 降つて又いふふおくれ 千代
 降つては日あしめ一くれ初 旬空

時雨

いそ〜中津の時雨は帆行帆 去来
 汐宮は船死うらん〜くれぬ 李由
 陵のつ〇湯こま〜くれぬ 木因
 年ころの〜もぬ〜ぬぬ 浪化
 只くはぬぬ舟ぬぬの里と 野坡
 本免のぬ〜とすれは時雨也 乙由
 池の里と又〜し〜ぬぬぬ 北枝
 竹よま〜ぬぬ早もぬぬ也 野坡
 食時よ〜ぬぬ村の時雨ぬ 去来
 朴の本の伐は〜ぬぬ雨ぬぬ 宇保
 ね苗を〜ぬぬぬぬぬ 三岐
 炭つ〜ぬぬぬぬぬぬぬ 知外
 後〜ぬぬぬぬぬぬぬぬ 氷因
 時雨かり土およ〜ぬぬぬ 青蘿

竹葉散やぶはなの汁音ねを指さすれ 歳人

足患あしをづも取とりて時ときや山やま路ぢ 空若

ひかしく池いけの邊へに村むらなるも 壺中

夢ゆめや時ときめよ又またふちのふと 朱批

押おしめきて痛いたむといふしうしう我われ 野坂

十月 十月の比ひはわわたれ鳴なりよよおお 縣草

十月の人ひとままととままの月つきおお 五明

小月 鴨鴨のねねここんんくく小こ月つき 甫尺

初冬 初初冬冬や白白湯湯味味は遠遠途途 干梅

初冬初冬の撒まくく入いるるやや初初 蓼太

小春 小小春春の葉ははは別べつつ小こまま 鬼貫

小春小春の葉ははは別べつつ小こまま 李由

小春小春の葉ははは別べつつ小こまま 涼傳

非送 非非送送の葉ははは別べつつ小こまま 〇〇

葉ははは別べつつ小こまま 鬼貫

けけの年ねんの葉ははは別べつつ小こまま 木枝

葉ははは別べつつ小こまま 除風

ままりりししとと解げ後ごををれれのの部ぶ 徐寅

色いろははおおつつててわわののここととまま 太極

葉ははは別べつつ小こまま 白雄

葉ははは別べつつ小こまま 二柳

色いろははおおつつててわわののここととまま 大江丸

十月十月ややおおししくく火かをを佛ぶつ 大魯

葉ははは別べつつ小こまま 芭蕉

一人一人の鼻はなはは痛いたむむけけ即即令令後後 史邦

即即令令後後やや馬うま子この上の上のの麻あし後後 奚魚

上上系系やや月つきおお附つかか即即令令後後 儿輩

十五 小小城城主主のの伯はく父ふははああふふちち十十板板井井 乙由

下草のくこのくも十枚并 許六

池火は鴨居のひくろ十枚并 谷水

白の木の隈へひく十枚并 千梅

辰風長とふるまはれり十枚并 史邦

蓮化のふとろひ十枚并 涼備

郭門のくしおろ十枚并 也有

あまのくしおろ十枚并 蕪村

あはれまこととせり十枚并 芭蕉

玉衣百人あまのくしおろし 山庄

水くち哉内美のまは十枚并 嵐竹

水くち哉つるをたは十枚并 史邦

ひくろあまのくしおろ十枚并 去来

生れこのまはれかや戒かや 杜若

水くち哉つるをたは十枚并 曉臺

まほ

おま

おまおままをみし後の夜 色直

おまおまやうてつろふ雨の輪 史邦

おまおまや衾くこもる寝たま 野坡

何物そころひまこといそおまをひ 一枝

おまおまやあひつりるふ 正秀

戸まこりのおまのまま五竹の門 横草

後のおまや原まこりつりておま 路通

いそこのに別てつろふおまをわ 惟然

からくしとおまおまのまま 芭蕉

有めはらつるまのままのまま 驛道

まののつろふおまのままのまま 馬肝

おまのままのままのままのまま 田丸

赤くしとおまおまのままのまま 團圓

ままのままのままのままのまま 大正九

霧柱

松枝のつらみおのひうらぬ 大正
あつたあまけりおの霧柱 利牛

風

風や天井くぬ堂の内 林紅
ふたのうらふやこふ折 志村

風や秋のまうこく鳩の声 雨色

風よとまよふうとまよふにむか 乙由

風や井よかうれてききうめ 色蒸

風よいの鮎ひらむ入江に 露沾

風や鶴なごの海の花よん 四醉

風よとまよふうとまよふの角 元梅

風よつとまよふとまよふ性 正秀

風のおめあられおるの鈴 陽和

風や雲よみうつくし 蝶夢

お雪

お雪やふらぬうらまふ子 塵壘

お雪や人のさけ入のうら 氷谷

お雪やまをすくせけしぬら 萬守

お雪やひらうふれぬうら 蛙足

お雪や人のさけ入のうら 桃隣

お雪や尾止の尻をつれて 諸九

お雪やまをすくせけしぬら 巴人

お雪や松のふしうまえ 百谷

お雪やまをねのうらまをたけ 佐角

お雪や小枝よよくとまよ 配力

お雪やまをすくせけしぬら 舟郎

お雪よまをすくせけしぬら 鳥明

霧氷

霧氷や松をけぬら 柱 其角

氷

氷川の危うく氷をわしけ 熱下

山風の水をうまけし氷をぬ 氷巻

冬

嵐の音はいつくもそらり 其角

さういひ橋をくしてきり 涼菫

居眠りしてふにうへんを死 風律

常の葉の隣をふりこり 蕪村

冬をうれの歌よ今知るるを 青蘿

冬を扱ひくり牡丹のたより 芭蕉

冬を扱や冬は未葉よりつれて 千代

口切や五山をふんはつれて 窓芭

が岡やそあつた母の白 蕪村

が岡や秋つらうり我を身 杜若

が岡や元旦の光のつらうり 占帆

茶忘音よおくこころを 芭蕉

ふりこのねしきりてお目撃 大空丸

火

火燈せよいさゝん葉を扱 二柳

ふりこの里しきりて火燈 風律

火燈や暖るれい星 乙由

火燈や暖るるまらぬのうり 浪化

火燈や暖るる病のひれを 青蘿

火の後の扱子あつ火桶の歌 芭蕉

向川の浪をいふ火桶 其角

火の後の扱子あつ火桶の歌 存菟

火桶抱てうねうねお花 臥央

火桶抱てんよをい火桶 蕪村

火桶抱てんよをい火桶 祐昌

火の扱や火桶のうり 壺中

火の扱や火桶のうり 白雄

酒堂

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

火

撰の火のたきひのたきつゝ 撰老

並戸をすすむとあつゝの撰史抄 仙李

炭 炭とむきとくあつゝの撰耳抄 嵐雪

くわいや火書とくあつゝの撰 大書

灯とたるひまの撰火の撰 臥央

炭焼 炭焼のひらうとくあつゝの撰 其角

炭焼や街の撰の撰 大書

炭竈 炭うぬやねりりて撰 半隠

炭をや焼入とくあつゝの撰 青羅

炭俵 炭俵まのの芒とくあつゝの撰 燕村

炭うぬやねりりて撰 蘭更

蘆花 蘆花けつとくあつゝの撰 兆群

金糸 紙糸おとすつゝの撰 蕪村

月うつゝの撰とくあつゝの撰 蘭更

雪のうらつゝの撰の撰 雲抄 諸九

紙 月うつゝの撰の撰 蘭更

風とくあつゝの撰の撰 杉風

雲のうらつゝの撰の撰 大魯

糸 糸巾とくあつゝの撰の撰 二柳

冬木立 初月や丸くとくあつゝの撰 葉文

初月や丸くとくあつゝの撰 菅菰

冬木立 冬木立とくあつゝの撰 蘭更

雪 雪もくあつゝの撰の撰 千代

雪もくあつゝの撰の撰 白雄

撰抄 皆人の白ひとくあつゝの撰 鬼貫

皆人の白ひとくあつゝの撰 野坡

皆人の白ひとくあつゝの撰 吉仲

皆人の白ひとくあつゝの撰 史邦

ひのちちとすまふかた

蕪村

山嵐

おんけいけいんをひらけり

昔橋

らんをたるとる徳臣の門

山嵐

茶のむの中よりけりるる

おんけいけいんをひらけり

茶をゆきまのひらけり

茶のむかひよりけりるる

茶をゆきまのひらけり

茶のむかひよりけりるる

山嵐

後のいひまをひらけり

白木の家までけりるる

おんけいけいんをひらけり

おんけいけいんをひらけり

おんけいけいんをひらけり

すつておんけいけいんをひらけり

山嵐

おんけいけいんをひらけり

山嵐

おんけいけいんをひらけり

山嵐

雨をゆきまのひらけり

おんけいけいんをひらけり

山嵐

おんけいけいんをひらけり

後のいひまをひらけり

山嵐

おんけいけいんをひらけり

おんけいけいんをひらけり

おんけいけいんをひらけり

おんけいけいんをひらけり

おんけいけいんをひらけり

おんけいけいんをひらけり

山嵐

おんけいけいんをひらけり

杜若

白圖

紅葉 炭屑ふた 枯葉白 白り 儿董

枯葉 ねお近えまの枯ふ雨きし 干梅

枯葉 萩たてる裏のぬ道とらる 惟然

枯葉 一つもく萩のいろ青 窓巴

枯葉 気とつけてみる程定し枯芒 杉風

枯葉 おまふりてゆえ入ぬ枯尾を 團更

枯葉 形くふ振つくぬぬ尾を 曉暈

枯葉 枯尾を白いこうてられらり 斗入

枯葉 枯芦やあの日ものされ奥 二柳

枯葉 若枯てこもいふんのま 團更

枯葉 日らうれそのまはじく枯にり 蕪村

枯葉 枯や竹の中おるまのつく 團更

枯叶

鶴を鳴枯叶はけく白鳥 扣雅

鳥けりや枯叶く音のよ 秋之坊

つ鶴の枕をりらふのお 康工

りそうよ枯いけりて枯叶を 乙由

梅柳の身をよみぬけのお 其角

えうこの枯叶おれも并葉 蓼太

ぬらうと夕をあらりの枯叶お 曉臺

心と裁す人をありて枯叶を 蕪村

る葉を 下列の萩をいこつのむ 養浩

流遠とのよる自やつけを 碧川

ま葉を 夕付日をらんてまやま高 半残

ま葉や一田いふいふ風 乙由

個代 何のやあらうと細代杭 何之

何のよれくとあらうか 近之

桂のしよと由る細代の無却 曉臺
川つやをきぬぬ久細代も 其継
お政のまはるまはつと細代も 也有

孫えよ月とそまも細代も 牧童
氷魚 月ふきのくまけていよる氷魚 松壁

氷魚 氷凌よ浪のこもるやまの雪 我々
水も ありとせあつちうのふおし 蕪村

ありやあつちうのふおし 青蘿
ありの浪の鼻つくわつが 乙州

街 街つよと町や望田の菜種畑 千那
猿坂つらとれたおまぬの街 元灌

雪ふんは足控してぬる街 杜若
村まも風一のいよるにじや 風律

おつねのいよるにじや 曉臺

まぐねのちのちやあま 儿董

村雨よ青あはちうの井 蕪村

くら流海つらとれたおまぬの街 門愁

まぐねのちのちやあま 松尾

雨やんてせうらふるふも外 大江元

おいらふるふも外 雪芝

けらふも外 芭蕉

鴨鳴やうつらぬ田のまらみ 二柳

夕暮のほほえまはる月お井 風律

琴のこもるやあま 文里

琴のこもるやあま 曉臺

新幹 けつりのちのちやあま 吾仲

あまのちのちやあま 歌扇

あまのちのちやあま 北枝

まやまやの月も入一後 蝶夢

まやまやの月も入一後 鬼貫

まやまやの月も入一後 除風

まやまやの月も入一後 蜂房

まやまやの月も入一後 麦水

まやまやの月も入一後 尺素

まやまやの月も入一後 枝東

まやまやの月も入一後 許六

まやまやの月も入一後 二柳

十一月

雙肩 かんざり豆蔵のうしろ嵐のね 杉風

かんざり豆蔵のうしろ嵐のね 矢迪

冬 雪の尾のそとくたやきおら 乙由

北山の日おきせる冬ふれ 石蘭

北山の日おきせる冬ふれ 蒼洲

袴足 袴足や吹のそふ底も 秋心 栗山

被物 袴足や吹のそふ底も 秋心 栗山

髪 髪まや枕のせとの入一ツ 桃園

心算 口やく中吹草奈の海のかん 竹戸

神奈 かりしるもねらるる春の心算 北抄

ね神奈や春の音もしるの心算 八重

後と後縁組そんで里神奈 其角

燈 川流うつんと帯し 子華

穂を 川流うつんと帯し 子華

秋の世や人よおとく 朔 琴大

子 子よふか梅やうつ宿のふえり 山田

町 町ま月老の念のこまやをし 紫曉

神歌

新日の光あられぬくころたはれ 紫雲

一ちりほてや雨のころたはれ 雪中

舞まひりのこせぬまや舞や 子葉

捕らひらとなくそ清き花 木草

あまのつる霞あやや舞をた 曉臺

舞をたはらけくや花のたはれ 蕪村

仏よりあなまをよー舞や 希因

舞をたはらけくや花のたはれ 夢太

旅人上形とよみけりまのま 杜若

あまのつる霞あやや舞をた 獅吹

あまのつる霞あやや舞をた 乙由

あまのつる霞あやや舞をた 其角

あまのつる霞あやや舞をた 蘭更

あまのつる霞あやや舞をた 打若

雪

さしこく雪とておす一葉 千那

雪降や半は後のる猶ふしん 望翠

非はよ雪ふりまはれん山田 加行

雪の日や人とちりくはれ小毛 嵐彈

水坊まやまことの情とけゆる 風國

流り雲のまをきやまをまら 夫舛

醒とふりうへくる原まが 自樂

雪よあてまのえふつらぬる 一首

大日枝や小枝のたはれける 蝶夢

白雪の中みかとりはれおれ 夢太

イハれふる雪のあはれうれ 儿董

かとつらまをましたる雪まが 松兄

なまらるる雪の門や雪をたけ 湘水

たのれいさるる雪をまらるる 涼菟

雪

雲吹

月夜し言ももさぬうし

秋秀

雲車

ひりもねく雲車はあまの

洋九

雲

みそくや雲のそく向り時

平夾

毛尾のあもたれれしれ

史邦

毎のまふの水はこおる

夢天

雲

新田の辰風さふくまぬ

昌房

播磨の山田ふうつこま

正秀

あまのたあまごころ

泥足

ぬくぬく言のたふる

友静

はうらひはしるる

白雄

修きやまを月夜と坊の

曉堂

その清月あまの

風國

雲

人あやあたらこめて

也有

まくとおれとるや

也有

葱

大根引て松風のきく

大丸

鶏やひよと括り

猿雖

葱くぬぬめや佐の器もの

嘯山

葱漬

梅原のや葱菜よ

桐芽

丁菜

けふのまをり

髭風

茶食

まかせは

也有

葱漬

我のまけ

蕪村

貝履

冬料理網さ

貝仰

蕪汁

けふのまけ

色魚

人あまのま

鬼賈

教くハ佛も我も

大祇

蕪汁の病あり

蕪村

納豆 納豆とるるとはれや味の香にじ 文軒
ふくとけ打をかきたて喰にまき 希友

生海産 木の樽のやうに思へ生海産が 乙由
おひてとるるものもねるるまじか 蕪村

乾鞋 乾鞋も宜也の懐しきの中 芭蕉
梅こころよめつけかこして酒氣非 二柳

絲 乾鞋と鳴りくけや此つ 雪芝
つとけよこれたふしおけもの 祐昌

お具引 我まし月おきてお具引 二齋
暖や絲の孔るまの海 曉堂
七浦の人しつらとて絲とる 平 仄尺

西乞 十二月 かくれり西乞の海のうらり 芭蕉

世の中は揃う上のお乞部 如行

おこねは小角豆も市のお乞部 正秀

西平のお乞ぶ文る雀うれ 乙由

冬ねるものお乞の平睡部 萬海

冬もねるものお乞の平睡部 乙州

おれおの身よりお乞の風部 青蘆

おこねは音お乞の市のお乞部 一柳

さくらと雲お乞の市のお乞部 暁庵

いろしお乞の市のお乞部 白雄

臘書 臘八はよの倍ねるお乞部 諸九

臘八はよの倍ねるお乞部 諸九

寒念仏 寒念仏は念佛の房もお乞部 康邦

父もねる母もかたきお乞部 大九

お念仏や氷もかたきお乞部 諸九

深しむるたふしきのはしきまは 寺尊
同しふおれんまはりのをいぬ 野風

師尊 伝名やふか友はりのまのの中 評
寒へ かりしは枝や葉なるまの入 二柳
庭ひらりともや氷水のまの入 松

寒月 さる月半一里さつるまの巻 山
まの月半のまの寺のまのま 蕪村

寒声 きききや南大門のまの月 其
まのまのまのまのまのまのま 嘯山

寒坂 寒を坂のまのまのまのまのま 二柳
寒枝 さる枝や花ひさるまのまのま 蓼天

寒枝 寒枝やまのまのまのまのま 橋木
まのまのまのまのまのまのま 桐水

まのまのまのまのまのまのま 千代

冬枝 枝はやまのまのまのまのま 大江丸
ふんまのまのまのまのまのま 曾木

大山 雲ふんて大山と出や枝より 一枝
古帆

衣配 衣配いさるぬれのまのまのま 望翠
まのまのまのまのまのまのま 乙由

まのまのまのまのまのまのま 芭蕉
まのまのまのまのまのまのま 乙由

まのまのまのまのまのまのま 大曾
まのまのまのまのまのまのま 萬子

まのまのまのまのまのまのま 五丸
まのまのまのまのまのまのま 九丸

まのまのまのまのまのまのま 希因

青雲の せきいよ 報謝の公遊うけり 子 鬼園

せきいよや 舟のうけり 浪化

舟が 豆と赤言の中ぬり 其角

鬼が赤言の中ぬり 猿雖

秋賣 於の價出と日ふりし 柳水

鬼のうてくすしし 杏か

手忘 魚のの公いし 芭蕉

舟人の心ふりてし 乙州

本屋のうらふらふ 幽泉

人んといふ 杉風

大木 さいふのうらふらふ 曲翠

さいふのうらふらふ 雀鳥

年長 居屋のうらふらふ 乙由

居屋のうらふらふ 千代

年のうらふらふ 大魯

年のうらふらふ 希因

年のうらふらふ 亀洞

年のうらふらふ 大丸

年のうらふらふ 鬼貫

年のうらふらふ 諸九

年のうらふらふ 乙由

昔 羽衣のうしたのむとくふ世日 蝶美

春 鶴下の日もつらに大平日 其角

おつ 大石の柳や大二十日京 移竹

何一人のあふきの二月の如 仙化

り半 けしや木葉まきのくは屋 沙明

り年やまるとよれい半の角 青蘿

りりや海ふたさるさ書 其角

りりや涼の内はうらま書 米角

りりやおもてかぬねの風 咽咽

春書 はしきふふよはねけしこのれ 野坡

春書 おおとひとつよ年ふれおろ 千代

から雛の月もあけかきしこのれ 梅貞

春ねふれい夜やらきすまのれ 権長

程たふししつとせの月お 水童

春書 大とくや親子像のさくまの 萬宇

大とくや新波堀江の野の夢 春鏡

城のけしあひあれとれこれ 芭蕉

養ふりし日もおつやと書 斗入

くちおおとくさくさくさく 蕨村

大阪淺野高造筆

文化八年辛未
八月吉日刻成

江戸書林

西村源六

角九屋甚助

須原茂兵衛

浦井徳右衛門

菊舎太兵衛

野田治兵衛

京都書林

大阪書林



平野屋 宗七

秋田屋 太右衛門

布屋 忠三郎

鹽屋 平助

鹽屋 忠兵衛

藤屋 徳兵衛

敦賀屋 久四郎

今津屋 辰三郎

藤屋 善七

